

令和6年1～2月の果樹病虫害巡回調査結果概要について

【東北信】 巡回日 1月30、31日、2月13、16日

1 りんご（東信5ほ場、北信11ほ場）

(1) うどんこ病の発生はみられなかった。

前年の感染芽（ぼけ芽）や芽しぶを見つけ次第、健全芽2～3芽を含めてせん徐する。

(2) リンゴハダニの越冬卵は、東信2ほ場でみられ、短果枝（30本）当たりの産卵数は0.4～14.6であった。

リンゴハダニは枝の分岐部や芽の基部、樹皮のくぼみ等に赤色で微細な卵を産み付け、越冬する。

本種の越冬卵に対して、マシン油乳剤を発芽前に枝幹部へ丁寧に散布する。マシン油は重複散布すると葉害を生じることがあるので注意する。なお、マシン油乳剤は商品ごとに登録内容が異なるので確認して使用する。

(3) 積雪量が多い北部山沿いのほ場では、早めに埋まった枝を掘り出すか、溝切り（雪割り）、融雪用資材の散布を行う。

2 うめ（東信1ほ場、北信1ほ場）

(1) 黒星病の発病枝は、全てのほ場でみられ、発病枝率は91.0～92.0%、発病度は50.0～52.0であった（図1）。



図1 ウメ黒星病の枝病斑（北信地域）

【中南信】 巡回日 1月17、18、19日、2月13、16日

1 りんご（南信5ほ場、中信6ほ場）

(1) うどんこ病の発生はみられなかった

(2) リンゴハダニの越冬卵は、南信2ほ場、中信2ほ場でみられ、短果枝（30本）当たりの産卵数は0.4～6.0であった。

2 なし（南信8ほ場、中信1ほ場）

(1) 黒斑病の越冬病斑、ぼけ芽、罹病枝はみられなかった。

(2) カイガラムシ類は、南信2ほ場でナシマルカイガラムシの寄生がみられ、いずれも少発生であった。

(3) リンゴハダニの越冬卵は、南信1ほ場でみられ、短果枝（30本）当たりの産卵数は8.7であった（図2）。

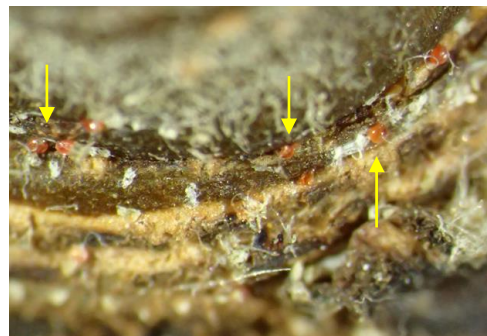


図2 リンゴハダニの卵（南信地域・なし）

3 うめ（南信2ほ場）

(1) 黒星病の発病枝は、1ほ場でみられた。発病枝率は1.3%、発病度は0.5であった。

(2) かいよう病の発病枝、越冬病斑はみられなかった。